

人間大好き 日記

さいたま市立木崎小学校

前島 英男

7月20日～21日

親父バンド「コーヒーブレイク」は新

潟県魚沼市へ演奏旅行に出かけた。知り合いの小出の商店会から出演依頼を受けたのだが、交通費もギャラもなし。それでもメンバーは行くと言ってくれた。12年前のクラスの親たちと結成したバンドだが、県外遠征は昨年いわき市に行つて以来2回目となる。今回は20代の男女各1名をメンバーに入れた。どちらも同じ職場にいた人で声をかけたら喜んできてくれた。自腹なのに申し訳なく思う。

午後、商店会の祭り会場に行きりハを行い、ビールを飲みながら出番を待つ。夕方、たくさんの方が集まり演奏を始めた。みんなとても喜んでくれた。演奏後は次々運ばれてくるごちそうとビールで腹一杯。その後、地元病院の副院長さんの家で接待を受ける。そこでも、ギター

を弾き、歌を歌う。

7月30日

埼教組が主催した「のびっこツアー」に職場の20代の女性2人をつれて参加。1人は福島出身で「福島の親子を呼んで遊んでもらう」と話したら、喜んでボランティアに来てくれた。職場でも2万円近くのカンパが集まった。

福島の子どもたちは放射能の心配がない埼玉の川遊びを心から楽しんでいて。親たちは「こんな明るい子どもたちの顔を久しぶりに見た」と言つて涙ぐんでいた。福島市の運動会は体育館外で3時間以内でやるそうだ。

8月6日～8日

妻と南三陸へ車で出発。行く前に震災関係の本を読み、見るところをあらかじめ

め考えておいた。初日は石巻に行く。津波でやられた土地もほとんど整地されており、草が生えているので不思議な感じがする。

2日目にホテルのバスで震災をめぐるツアーに参加。1時間ほどであったが、志津川の防災庁舎などを見た。あまりのすさまじさに妻はショックを受けていた。その後、車で気仙沼に行く。途中の小さな漁村は復興は手つかずの状態。かなり奥の山の杉が津波の塩で枯れている。気仙沼の復興市場で買い物をして、店の人からたくさん話を聞いた。

8月20日

日直のため1日学校で勤務。家にあつたそうめんを1箱持つて行く。昼にそうめんをふるまう。2年生が管理している

畑で取ってきたナスやトマトも出したら皆喜んでくれた。15人いたがみんなで楽しく会食できた。

9月4日

組合が毎年やっている「フットサル大会」に職場で参加するための集まりを持った。若者に声をかけたら10人近く集まってくれた。練習計画とユニフォームの購入について相談した。今のところ参加は8人。

9月10日

フットサル大会に向けて、夜体育館で初練習。大会に出ない人も来て総勢11名。なんと20代が9人、30代前半が1人、59才の私もがんばる。みんな「部活みたいで楽しい」だの「汗かくと気持ちいいね」などと語りながら、90分ほど練習をした。

子どもたちもステージに

これが、私の最近の主な日記。いつも沢山の人と関わりを持っている。

バンド活動は12年前にさかのぼるが、最近では社会福祉協議会や退職校長が関係する団体などからも声がかかってくる。

る。恒例の「親父バンド大集合」では、最近クラスの子ども達もステージで一緒に2曲歌うことにしているが、中にはギターを買ったり、ドラムを習い始めたりする子もいて少なからず後継者作りに貢献しているようだ。

職場でバンドを結成

今までいたどの職場でも、必ずバンドを結成することも楽しみの一つだ。かつては納め会では必ずバンドが出演し、職員で歌が好きな人に生演奏で歌ってもらった。あるときは職員旅行に機材一式を持って行き「ツアー」と称してみんなで大騒ぎをしたこともある。

前任校では校長も音楽好きなので、3学期の納め会は結婚式場を控ええジャズバンドを結成し練習を始めた。初めは5人ほどであったが、「実は私フルートが…」「ピアノを少し…」等という人が見つかり（正確には幅広い声かけ）最終的に10人近くのバンドになった。

今の職場も大変厳しい職場であるが、私が教室でギターを弾いていたり音楽を聴いていると「それ、ビートルズですか」「吉田拓郎の大ファンです」など声をか



けてくる人が結構いて、その後私のライブに来てくれたり、一緒に新潟までいってしまう人まで現れるのだ。

雰囲気さがらりと変わる

毎年、職員の異動があると私が必ず全



員に聞くことがある。「音楽やる」「スポーツやる」「酒好き」の3つだ。不思議と必ずどれかに該当するので、すぐに仲良くなってしまう。今の学校は2年目なのに、昨年は1泊の職員旅行を2回もやった、バンドを作って結婚式で披露したり、フットサルチームが結成されたり

と楽しい職場になってきた。古くからいる人から「職場の雰囲気さがらりと変わった」と言われる。

今年、前任校で一緒だった女性が異動して来て、一緒に校庭の梅でジュースを作ったり、グリーンカーテンのゴーヤでチャンプルーを作ったりしながら、職員室で若い人たちと一緒に楽しんでいる。

いつも周りに人が

こうして、私の周りにはいつも沢山の人がいる。若い女性と飲むことが多いなど、妻から「女ったらし」と言われていたが、最近は「あんたは人ったらしだね」と言われている。元来寂しがりやなので、人が周りにいないと寂しいのかもしれない。でも、根本には「人間が大好き」ということがあるのかもしれない。

教員を選んだのもそのことが大きかったのだろう。特に子どもや青年にはエネルギーや無限の可能性を感じつつ、成長していく上での悩みや葛藤を「少しでも聞いてあげたい」とおせっかい心を出してしまう。青年期に沢山のことを経験し、沢山の挫折も経験してきただけに、そうした人を見ると黙っていられなくなるの

かもしれない。

自分の頭で考え 一緒に歩む

同時に、私自身が高校生の時にベトナム反戦運動に関わり、その後学生運動、教職員組合運動、そして地区労働運動となってきた、誰もが人間らしく生活できる社会を目指す運動への次世代の参加者を一人でも増やすことをいつも忘れたことはない。

今年4月、3年前に教育実習を担当した青年を組合にむかえ入れた。組合員がたった一人の職場であるが、周囲の人にも組合の話をよくする。被災地の支援や原発反対の紹介もしている。

時間はかかるが、自分の頭で考え一緒に歩む仲間を増やしていきたい。